

OF 特集号

緑ネット通信 No.92

緑のネットワーク・まつど

代 表：藤田 隆
 年会費：1000 円
 口座番号：00170-9-696174
 連絡先：高橋盛男 090-2935-9444

都市の緑を残すためには、緑を見守り育む人のネットワークが不可欠です。私たちの活動の目的は、みどり特に樹林の保護・保全を願う人やグループと連携しその輪を広げ、豊かな生態系を保つ森を次世代に伝えることです。

第14回オープンフォレスト in 松戸

若葉が薫る5月「オープンフォレスト in 松戸 2026」が開催されました。松戸市内で里やまボランティアが活動する森を公開するこのイベントは、今年で 14 回目。5月第2週と第3週の土日、4日間に公開された森は 17 カ所。両週末とも好天に恵まれ、スタッフを含む参加者は合計 2,542 人を数えました。



紙芝居の上演(野うさぎの森)



眺めがいいよ(囲いやまの森)



森のご案内(しんやまの森)



輪投げ遊び(縄文の森)



カブトムシの幼虫さがし(八ヶ崎の森)

OFレポート

親子の笑顔と歓声あふれた 紙敷3つの森の開放日

森ごとに趣向を凝らして来訪者を迎えるオープンフォレスト。東松戸エリアでは、紙敷石みやの森、野うさぎの森、紙敷みなみの森が隣り合っており、それぞれに個性のある3つの森を楽しめる場所。16日(土)・17日の公開日の様子を紹介します。

【紙敷石みやの森】 16日午前、この森を最初に訪れたのは、10人余りのご年配グループ。聞けばこの森で活動する七喜の会の代表、池村信さんと同じ町会の皆さん。「以前にも、この森を使わせてもらった」とか。地域の人のつながりが森と結びつくのはうれしいこと。イヌシデの広場で、童心に返って竹ぽっくりを楽しんだり、ハンモックでくつろぐ姿が印象的でした。



そのイヌシデの広場で、子どもたちに人気だったのが、リースづくりや、松ぽっくりと紙コップのけん玉づく



りなど。驚いたことに、ここで両国から来た親子に出会いました。「甚左衛門の森の会員に知り合いがいて、このイベントを紹介された」

とのこと。遠路はるばるありがとうございます。子ども2人とお母さんの親子、このあと野うさぎの森へも行き、お昼を挟んでたっぷり新緑の森を楽しんでいました。

【野うさぎの森】 お隣の野うさぎの森は、さしずめ「野あそびの園」です。「キッズエリア」と呼ぶ広場がこの森の特色。長ブランコにスラックライン、木登りやクライミングロープなどさまざまな遊具が用意され、バドミントンコートや紙芝居の劇場もあります。



「ここでの体験で、親御さんたちが緑の価値を理解して、子どもたちが森と触れ合う機会をもっと増やしたいと思うき

かけになればうれしい」とこの森の活動団体、樹人の会の広報担当・藤田史郎さん。オープンフォレスト以外でも、近隣の子ども会などの利用がたまにあるそうで「地域の方をはじめ、皆さんにこの森を使ってほしい」と言います。日曜日の17日は特に、多くの親子連れでにぎわっていました。



【紙敷みなみの森】 この森では、日差しの明るい台地下の「南の広場」が受け入れ場所。お母さんたちが竹細工に挑戦するそばで、子どもたちはシャボン玉や紙玉竹鉄砲の射的などを楽しむ、のどかでほのぼのとした光景が見られました。

この「南の広場」のある緩斜面は、以前は淡竹の林でした。しかし、2020年ごろに淡竹が開花し、一斉に枯れてしまいました。みなみの森の会では、淡竹林の再生を図る一方、枯れ竹を整理した跡地に木を植えています。モミジやサクラ、ユズ、ハナモモ、クリ、ビワなど。花や実、紅葉を楽しめる樹木です。

けれども、新たに植えた樹木の成長はこれから。ユズやビワが実をつけるのにも10年近い歳月を要します。

「木が育つには長い時間がかかる。森とのつきあいは、その時間とのつきあい。そのことも訪れた皆さんに伝えたい」と同会の加藤茂男さん。確かにそれは「オープンフォレスト」というイベントが携える、大切なメッセージのひとつと言えるでしょう。

(高橋盛男)





森のブランコ(オリンポスの山)



田植え体験(根木内歴史公園)



伸びた筍に興味津々(溜ノ上の森)

**0F2026
森のアルバム**



大人も子どもも弓矢遊びに夢中(三吉の森)



カブトムシの幼虫はぶによぶによ(芋の作の森)



丸太渡り(甚左衛門の森)



(小浜屋敷の森)

0F フレ企画・松戸のみどり再発見ツアー11 報告

野うさぎすむ まつどの森で みどりを楽しむ

4月19日は暖かく、時に暑さを感じる気候になりました。東松戸駅に集合した10人の皆さんに「今日は雑草を見にいきますが、この季節でなければ見られない特別のみどりに出会いたいと思います」と話していると、高層住宅が建ち並ぶエリアに空いた空間に調整池が現れました。特定外来生物に指定されているオオカワヂシャが繁茂していました。在来のカワヂシャを駆逐してしまう繁殖力があるのです。他に「クレソン」も生えていました。これはわかりやすかったと見えて、「ステーキのつま」とつぶやくのが聞こえました。

調整池からほどなく、立ち寄ったのは「ヒガマツテラス」と呼ばれ、市民センター、図書館、青少年プラ

ザが同居した複合施設です。図書館は未就学児用のスペースで絵本が並び、奥の書架はハードカバーなどが収納され、全体がゆったりと取ってありました。設立当初は、先進的な取り組みとして各県、近隣市からの見学が絶えませんでした。

ヒガマツテラスから森への道を進むと、腰の高さ



道端で畑の雑草ホトケノザを説明する

までかさ上げた畑がありました。手に取りやすい高さ「いわゆる雑草」が生えていました。ホトケノザを手に取り、春の七草で言うところのホトケノザとの違いや紫色の花弁の奥にある蜜標を観察しました。

頻繁に通る車を避けながら、進行方向右手に見える南斜面に広がる森のグリーンを眺めてもらいました。芽吹いたばかりの黄緑色に輝いて見える新緑、深い緑に包まれた常緑樹とみどりのグラデーションがステキでした。

程なく、みなみの森に到着し、ぽっかりと木々の間が抜けている空間を指さしながら、淡竹の花が5年前に咲き、竹が全部枯れたことを伝えました。みなみの森では、太い木が立ち並ぶ南斜面を登り、平坦な広場で松戸里やまボランティア入門講座の11期生が講座修了後に活動を始め、十年を超えていることなど説明しました。広場のハリギリの曲がりくねった大木を見てもらい、サワラやスギ木立の間を抜けて野うさぎの森に向かいました。

野うさぎの森は、オープンフォレストの準備に忙しい中、森の会員が出迎えてくれました。森全体を案内してもらいました。森のシンボルとされる胸高直径82cmのクスノキは本当にどっしりとしていました。子どもたちが遊べる広場には、バトミントンコート、10メートルを遙かに超える長いロープがつながる



大きなブランコがあり、参加者全員に試し乗りをしていただきました。「こんなブランコに乗るのは初めて最後かもしれない」などと冗談がはじけ、楽しい思い出が出来ました。

野うさぎの森では伐倒した木を製材し、物置小屋を2棟。ベンチ、テーブル、掲示板を制作していました。太い枝などは薪に使えるようにホルツハウゼンを作り乾燥している様子が見られました。

市立松戸高校の脇の道から、石みやの森に入ると、スタジイの横に延宝4年(1676)建立の祠があり、江戸の昔から、周辺の人々の心のよりどころだったのかもしれないと思いました。ウグイスカグラの広場で一休みしてから、イヌシデの広場でハンモックに全員乗ってもらいました。ここでも思いがけない体験になったのではないかと思います。

次に「ゆいの花公園」に立ち寄り、数々の花が植わっている花壇を見物しました。野の花も花壇の花も見られるツアーになりました。

最後に参加者の皆さんに感想を伺いました。「キンランが見られて満足」、「野うさぎに出会うことを楽しみにしていた」のほかに、「トゲトゲしている気持ちがキンランに出会って、心が安らぎました」とお話ししてくれた方がいて、私たちスタッフの気持ちも改めてすっきりさせてくれたように感じました。(藤田隆)

2026 総会報告

再発見ツアーは4月オリンポスの山、千駄堀湧水、芋の作の森、しんやまの森を、10月は金ヶ作の三吉の森と囲いやまの森、1月は北小金駅から本土寺、殿平賀遺跡、大谷口歴史公園を巡りました。入り組んだ谷と台地が織りなす斜面と樹林地。多様な生きものを育む里やまの森。季節ごとに変化していく松戸市のみどりの再発見はこれからも続けていきたいと考えています。

とりわけ健康に気を配りながら続けていきたいと思えます。今年もよろしくお願ひします。

代表 藤田 隆

★松戸のみどり再発見ツアー（観察学習会）No.72

次号通信(9月発行予定)を再度確認ください

予告 水とみどりのふれあい松戸川を歩く

10月25日(日) 9:30~12:00 (小雨実施)

集合：松戸駅西口デッキ

持ち物：飲み物、雨具

参加費：300円(小学生以下無料)

申込み・問合せ：090-4078-3703 (藤田 18時以降)

その他 歩きやすい服装でどうぞ

※参加は申込制・先着30名 (10月1日より受付)